

企業名： 株式会社 安藤・間

レポート名： コーポレートレポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

コーポレートレポートから、人々の生活の向上と地球の未来に負の影響を及ぼさない持続可能性とを両立し、ものづくりを通じて新たな価値を創造するという安藤・間が目指す将来の姿が理解できた。5 ページには国連が 2015 年に定めた SDGs の理念に賛同し、CSR 活動を通して SDGs の実現に向けて努力しているという内容の記述があり、会社の目標への尽力の裏付けとなっていると考えた。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できる。安藤・間は価値創造の実現のために長期的・中期的な目標を掲げている。そして中期経営計画の非財務パフォーマンス向上のために「コア SDGs および KPI」によって作戦実行を可視化している。その中身に注目すると優先して取り組むコア SDGs および KPI とそれらの数値目標や達成年度を具体的に掲載している。このように安藤・間は競争においてはとても重要であるとされる優先順位の決定と達成のための計画と過程の記録を行っており、価値創造の実現のために「最短」のアプローチを行っているといえるため競争において優位性があると判断した。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

安藤・間は先ほど言及した目標を実現のために長期ビジョン「安藤・ハザマ VISION2030」を掲げている。その計画の指針として財政面は中期経営計画等の数値計画、非財政面に関してはマテリアリティに基づき各種施策を推進している。長期ビジョン達成の支えとしてそれよりも短いスパンである中期での目標設定は、それを常に継続することで確実に持続性を保証するという意図がうかがえるため競争優位性に持続性があると判断した。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

長期ビジョンの一つの要素である従業員価値の創造の取り組みとして 2023 年 3 月の実地見通しの各項が記載されている。社員の処遇改善と福利厚生の実施やテレワーク制度の継続的改善などがあり、全体として実現が見込めるものが多いかついずれも社員や従業員が仕事にコミットするのに役立つと考えたため、私自身の人的資本の価値向上も達成できると考えた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

サステナビリティ(持続可能性)や SDGs という単語が一貫して用いられていたため、それが会社の目指している姿が明確に理解できた点がよかった。

企業理念や長期目標に対して、建設事業の面からどのようにアプローチしていくかの記述が少なく、目標と事業の関連性がわかりにくいところは改善の余地があると感じた。